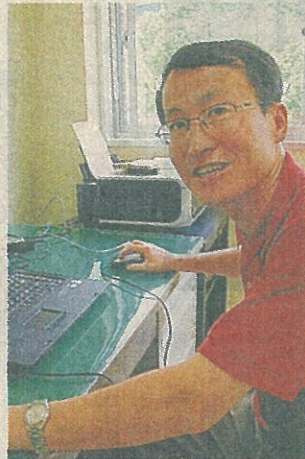


中国からの研究員

ちん 越さん  
陳 越さん



厦門(アモイ)理工学  
院から今月、学術交流校  
の佐世保高専に研究員と  
して派遣された。来年二  
月まで学校管理や授業の  
手法などを学ぶほか、中  
国語講座も受け持つ。  
大学で日本語を、大学  
院で東南アジア史を専攻  
し、日本の商社の中国事  
務所で働いた経験もある  
が、長期の日本滞在は初  
めて。「言葉だけでなく、

文化理解し交流促進

日本の文化、学生や教職  
員の考え方などを理解す  
ることが交流の成功の  
鍵」と来日の動機を流し  
ような日本語で語る。  
「日本の教職員は勤勉  
で仕事も自発的。一方で  
中国の学生は日本のよう  
に授業中に居眠りした  
り、おしゃべりはしない」  
とも。経済発展が目覚ま  
しい中国は学歴社会化が  
急速に進み、進学率は右  
肩上がり。約七千人の同  
学院の学生総数も九月の  
新学期からは約一万人に  
増えるという。  
「厦門はビルが林立し  
緑が少ない。佐世保は自  
然が美しく、庭付きの家  
が多くてうらやましい」。  
インターネットのテレビ  
電話で中国にいる妻、長  
男との会話が日課。三十  
八歳。(佐世保)